

Fuku Mimi かわらばん

2010年12月11日
発行者 SON東京 ファミリー委員会

今回は、

プログラム紹介(バスケット・代々木2組)

プログラム紹介・・・今回はバスケット(代々木会場2組)プログラムです

バスケットプログラム代々木会場2組は、基本的に高校生以上のアスリートです。国立オリンピック記念青少年総合センターの体育館で活動しています。バスケット経験豊富なたくさんのコーチにご指導いただき、現在登録しているアスリートは30名です。

ゴールドマン・サックス、ハンズオン東京、香港上海銀行などからのボランティアさんも毎回参加していただいて国際色豊かです。たくさんの方々に支えられて活動しています。

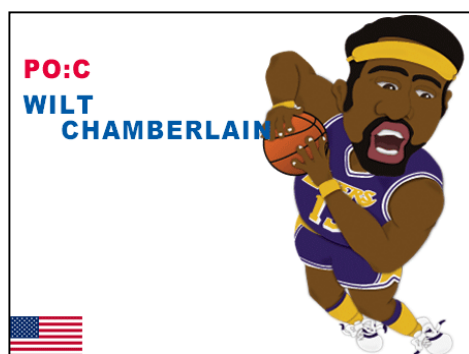
レベル別に分かれての練習のあと、最後には必ずミニゲームをしています。時には、ホワイトボードを使って戦略の説明も聞きます。アスリートも真剣な眼差しです。また、いろいろな大会にも参加しています。

* アスリートに聞いてみました

A君: 僕のバスケットの目標は、リバウンドを取れること
トラベリングをしないこと
ファールをとらないこと です。

尊敬する人は、

NBA1シーズン最多得点記録を持つウィルト・チェンブレ
(元フィラデルフィアウォリアーズ)です。頑張ります!



B君: バスケットは、とても楽しいです。
これからも頑張ります。

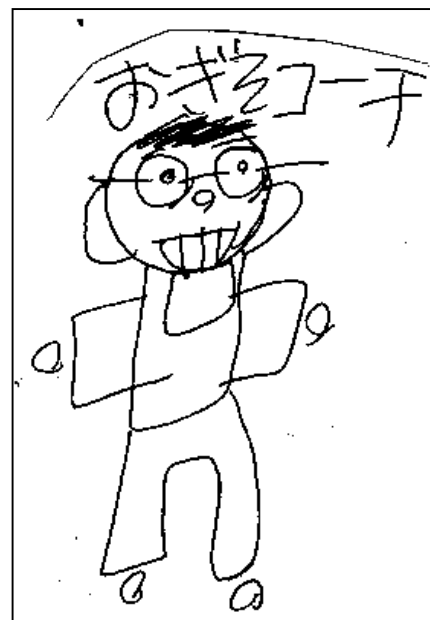
* ファミリーに聞いてみました

母C: SOのバスケットに行くようになってから、ずいぶん世界が広がりました。最初は連れて行かなければならなかったのですが、一人でいけるようになり、今ではあっちこっちフラフラして帰れるようになり、最初はゴールの位置さえ理解できていなかったのが、立ってゴールに入るようになり、最近では走りながらゴールを決めていて驚かされました。

息子は今日も「ゴールは入った」と嬉しそうに帰ってきます。大好きな友達やコーチやボランティアさんに可愛がられ、バスケットにいったはずなのに手紙を渡そうとはしゃぎまわっています。こんな楽しい場所を提供してくださっている関係者に感謝!

母D: 小さいころの経験から、自閉症の息子にはチーム競技は無理と諦めていました。高校生になって、本人が「バスケットをやりたい」と言ってきた時は、「どうせ無理、続かないだろう」と思いながら、お試して参加させたところ、現在で7年目になります。きめ細かいご指導の下で、彼なりに成長し自身をつけ、楽しんで参加しています。

親の思い込みは子供の可能性の妨げになりかねないと思いました。
チャレンジ!



FUKUMIMIは月次開催のファミリー委員会で取り上げられた議題の報告、委員会にて意見、委員からでてきた提案等をわかりやすく読める「かわらばん」です。

ご意見やニュースを募集しております。ぜひ投稿をお願いします。

阿部 泰之

【編集後記】

あつという間の一年間でした。2010年のファミリー委員の皆様、お疲れ様でした。右も左も分からぬ愚委員長でしたどうもスイマセン、ただしなんとかFUKUMIMIだけは続けることができ(4年間継続)胸をなでおろしています。